

令和3年度 総合部会研究計画

1 研究主題

自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指して
－主体的・協働的に取り組む探究的な学習の充実－

2 研究主題・副主題について

(1) 研究主題設定の理由

社会や経済は、コロナ禍において急速に変化し、Society5.0 に向けて動き出している予測困難な時代となっている。このような未来社会を生きる子供たちには、ESDやSDGsの実現や新しい未知の課題に、異なる多様な他者と協働して対応し、自己の生き方を考えていくことが求められている。総合的な学習の時間においては、自己の生き方を考えることを、以下の三つと捉える。一つ目は、対象との関わりにおいて自分の生活や行動について考えること。二つ目は、自分にとって学ぶことの意味や価値を考えること。三つ目は、この二つを生かしながら、学んだことを現在や将来の自己の生き方につなげて考えるということである。

学習指導要領では、これからの時代を生きる子供たちに必要な資質・能力を育成するため、総合的な学習の時間において、各教科等で育成する資質・能力を実社会や実生活において活用すること、各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力を育成することが求められている。そして、各学校は、目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を明確に設定する必要がある。そして、総合的な学習の時間に育成する資質・能力は、探求課題を解決することを通して自己の生き方を考えていくことにつながるものでなければならない。これらのことを踏まえ、本部会においては、「自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指して」を主題に、研究を進めていくこととする。

(2) 主体的・協働的に取り組むとは

課題の解決に主体的・協働的に取り組むことは、探究的な学習の充実につながる。主体的に取り組むとは、よりよい課題の解決のために、見通しをもって自ら計画を立てて学習に向かうことである。具体的には、どのように情報を集め、どのように整理・分析し、どのようにまとめ・表現を行っていくのかを考え、実際に社会と関わり、行動していく姿として現れるものである。

また、課題の解決には他者と協働的に取り組むことも重要となる。対話的に多様な他者と関わり、協働して活動を行うことにより、学習活動が発展したり、課題への意識が高まったりする。異なる見方があることで、解決への見通しをもちやすくなり、異なる意見を生かして新たな知を創造することができる。

児童が主体的・協働的に学習に取り組む中で、互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合う関係が期待される。さらに、社会に積極的に参画したり貢献したりする資質・能力を育成することにもつながる。

(3) 探究的な学習の充実とは

探究的な学習とは、問題解決的な学習が発展的に繰り返されることであり、その中で「探究的な見方・考え方」を働かせることが必要である。「探究的な見方・考え方」とは、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方である。児童が「探究的な見方・考え方」を働かせながら学習に取り組むことで、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することにつながるのである。

探究的な学習を充実したものとするためには、児童が探究的な学習に主体的・協働的に取り組み、目指す資質・能力を養うことができる単元にしなければならない。単元の作成においては、各学校の実態に応じた目標を

実現するにふさわしい探究課題を設定することが必要である(下表参照)。また、その単元が児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりとなるように計画することが大切である。

探究的な学習が充実することにより、各教科等で育成された資質・能力は繰り返し活用・発揮される。それによって、生きて働く「知識及び技能」として習得され、未知の状況にも対応できる「思考力,判断力,表現力等」が育成され、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力,人間性等」の涵養につながるのである。

探究課題の例			
横断的・総合的な課題(現代的な課題)	地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観(国際理解)	地域や学校の特徴 に応じた課題	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織(町づくり)
	情報化の進展とそれに伴う日常生活や社会の変化(情報)		地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々(伝統文化)
	身近な自然環境とそこに起きている環境問題(環境)		商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会(地域経済)
	身の回りの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々(福祉)		防災のための安全な町づくりとその取組(防災) など
	毎日の健康な生活とストレスのある社会(健康)		
	自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題(資源エネルギー)	児童の興味・関心 に基づく課題	実社会で働く人々の姿と自己の将来(キャリア)
	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々(安全)		ものづくりの面白さや工夫と生活の発展(ものづくり)
	食をめぐる問題とそれに関わる地域の農業や生産者(食)		生命現象の神秘や不思議さ, そのすばらしさ(生命) など
	科学技術の進歩と自分たちの暮らしの変化(科学技術) など		

3 研究の視点と内容

総合的な学習の時間の目標に示された「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」は、年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通した授業の積み重ねによって総合的に育成されていく。そして、「資質・能力」の育成のためには、「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ことが鍵となる。さらに、探究の過程を充実させるとともに、その過程において、児童や学校、地域の実態等に応じて、児童が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童の興味・関心に基づく学習を行うなど、創意工夫を生かした教育活動を充実させることが大切である。

そこで、本年度は(1)目標と内容の設定及び指導計画・単元計画の作成(2)単元づくりにあたって(3)探究的な過程の充実(4)育成を目指す資質・能力の明確化につながる学校評価の視点で研究を進めることとする。

(1) 目標と内容の設定及び指導計画・単元計画の作成

総合的な学習の時間は教科書がないため、各学校において定める目標や内容に基づいた「何を学ばせたいか」を明確にし、資質・能力を具体的に示す必要がある。探究課題は「何について学ぶか」を表し、資質・能力は「具体的にどのようなことができるようになるのか」を表している。目標の実現に向けて指導計画が適切に機能するためには、内容について、探究課題としてどのような対象と関わり、その課題の解決を通して、どのような資質・能力を育成するのかを記述することが重要である。各学校において、カリキュラム・マネジメントを通して各教科等で身に付けさせたい資質・能力を関連付け、効果的な教育課程を編成していく必要がある。

① 目標と内容の設定

- ・各学校における教育目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力を示した目標を設定する
- ・地域や学校の特徴、児童の興味・関心に基づく探究課題を設定する
- ・探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を三つの柱に沿って示す

② 意図的・計画的・組織的な年間指導計画の作成

- ・児童の学習経験に配慮し、4年間を見通して、年間指導計画を作成する
- ・外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識する
- ・課題の解決につながる体験活動を適切に位置づける
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を図る

(2) 単元づくりにあたって

単元とは、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとまりのことである。総合的な学習の時間では、児童にとって意味のある課題の解決や探究的な学習活動のまとまりとなるように単元を計画することが大切である。児童は、自分を取り巻く人、もの、ことについて、様々な興味・関心を抱いている。教師は、その中から教育的に見て価値のあるものを捉え、それを適切に生かして学習活動を組織する。学習活動の展開においては、育成を目指す資質・能力が育成されるように、児童が自ら課題を解決する過程を想定して単元の計画を立てていく必要がある。

① 児童の関心や疑問を生かした単元の構想

- ・児童の関心や疑問が本人にとって切実なものであること
- ・意図した体験を通して児童に新たな関心や疑問をもたせる
- ・価値ある学習に結び付く見込みのあるものを取り上げる

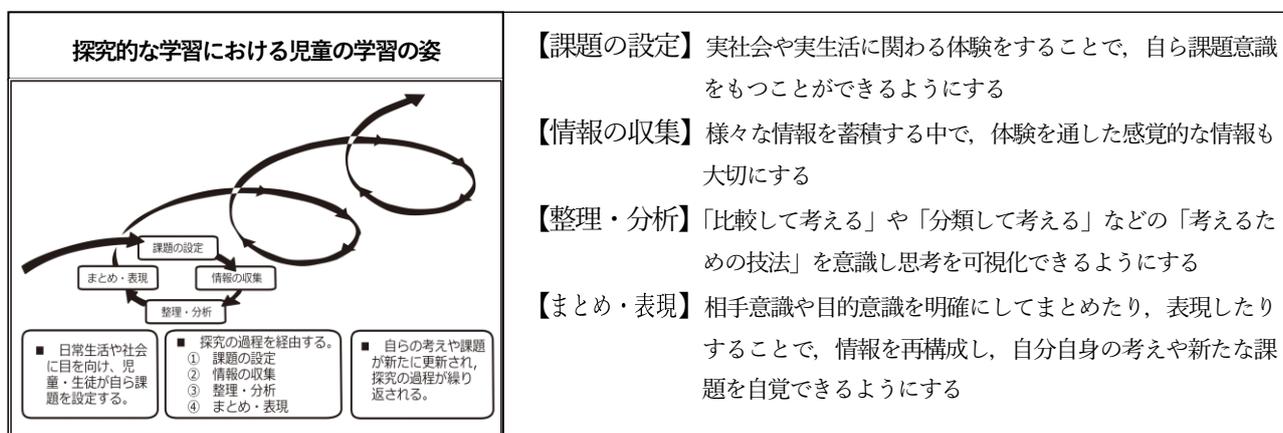
② 教師が意図した学習を効果的に生み出す単元の構成

- ・拡散的に探索する手法を用いる等、十分な教材研究を行う
- ・学習の展開における児童の意識や活動の向かう方向を的確に予測する
- ・社会資源、専門家、関連機関などについて十分に把握し、タイミングよく出会わせる

(3) 探究的な過程の充実

児童は未知の世界を自らの力で切り開く可能性を秘めた存在である。興味ある事象についての学習活動に取り組む児童は、納得するまで課題を追究し、本気になって考え続ける。この学習の過程において、児童はよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育てていく。

そして、総合的な学習の時間における学習では、「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のプロセスが示されており、学習活動を発展的に繰り返していくことが大切である。



さらに、探究的な学習の過程を質的に高めるために次のことに留意する。

① 他者と協働して課題を解決しようとする学習活動

- ・他者を、共に学習を進めるグループだけでなく、学級全体や他の学級あるいは学校全体、地域の人々、専門家など幅広く捉える
- ・グループでより良い考えを導き出すことに加えて、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということを重視して学習活動を設定する

② 言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動

- ・報告の場として、プレゼンテーションやポスターセッションなど、多様な形式を目的に応じて設定する

③ 「考えるための技法」の活用

- ・学習活動において、「考えるための技法」を様々な場面で選択して、具体的に使えるようにする

(4) 育成を目指す資質・能力の明確化につながる学習評価

学習評価は、教師が指導の改善を図るとともに、児童が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするものである。そのためには、学習評価の在り方が重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で改善を進めることが求められている。また、児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することにより、児童自身が学習したことの意義や価値を実感することができるようにすることが大切である。

① 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の評価規準」の作成

資質・能力を明確化することにより、評価規準としてそのまま当てはめることができ、より具体的に評価を行うことができる。その際、観点毎に次のポイントを参考にして作成することが考えられる。

知識・技能	① 概念的な知識の獲得	事実に関する知識を関連付けて構造化し統合された概念として形成されること (例：〇〇川の生物は、互いの特徴を生かし、周りの環境と関わって生きていることを理解している)
	② 自在に活用することが可能な技能の獲得	手順に関する知識を関連付けて構造化し、日常的に活用可能な技能として身に付けること (例：アンケートによる街頭調査を、相手や場面に応じた方法で実施している)
	③ 探究的な学習のよさの理解	資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを探究的に学習したものと結びつけて理解すること (例：高齢者への接し方など自分の行動の変容は、高齢者について学んだ成果であると気づいている)
思考・判断・表現	① 課題の設定	実社会や実生活の複雑な問題に対して、自らの力で解決の方向を明らかにし、見通しをもって計画的に取り組むことができるようになること
	② 情報の収集	情報収集の手段を意図的・計画的に用いたり、解決の過程や結果を見通したりして、多様で効率的な情報収集が行われるようになること
	③ 整理・分析	収集した情報を取捨選択すること、情報の傾向を見付けること、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見いだすこと
	④ まとめ・表現	整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること、振り返ることで対象や自分自身に対する理解が深まること
主体的に学習に取り組む態度	① 自己理解・他者理解	自他を尊重すること 例えば、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとする等の視点
	② 主体性・協働性	自ら取り組んだり力を合わせたりすること 例えば、自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組む等の視点
	③ 将来展望・社会参画	未来に向かって継続的に社会に取り組もうとすること 例えば、自己の生き方を考え、夢や希望をもち続ける等の視点

② 長期的、共感的、多面的な評価方法

- ・学習過程や年間を通しての児童の変容や成長を適切に評価する
- ・児童一人一人が学習を振り返る機会を適切に設け、自分のよい点や進歩の状況に気付くことができるようにする
- ・多様な評価方法を適切に組み合わせる(表現による評価・観察による評価・制作物による評価・ポートフォリオによる評価など)
- ・多様な評価者による評価を行う(自己評価や相互評価、協力者等による他者評価など)

参考文献 「平成29年7月 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編」

「令和2年3月 『指導と評価の一体化』ための学習評価に関する参考資料 小学校総合的な学習の時間 国立教育政策研究所」